

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立池田小学校

4月22日に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、分析した結果をまとめました。この調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（児童質問紙調査）も実施しています。生活習慣と学力との関係などもふまえ、一部ではありますが、本校の子どもたちの総体的な状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語、算数それぞれにABのテストがあり、Aは主として知識、Bは主として活用についての問題になっています。本校におきましては、校内研究を国語科に設定し、特に話すことや聞くことを大切に授業に取り組んでいます。その結果、ここ数年「話すこと・聞くこと」の領域ではおおむね満足できる結果となってきています。また、児童質問紙調査から国語や算数への学習意欲が認められ、特に総合的な学習への関心は高いものとなっています。

国語科より

国語B（主として活用）の設問の中には、よい結果が見られるものがあり、目的に応じて、話し合いの視点を整理して書く問題や、表現の特徴を捉えたり、違いを比べて読み、自分の考えを書いたりする問題の正答率が高くなっています。

国語A（主として知識）の設問の結果から、漢字の熟語や送り仮名のあるものになると正答率が低くなる傾向が見られます。また、読み取り問題に対する苦手意識がうかがえます。今後、家庭と連携して漢字の読み書きなど、基礎基本の徹底と読書習慣をつけるなどの取組みを充実していく必要があると思われます。

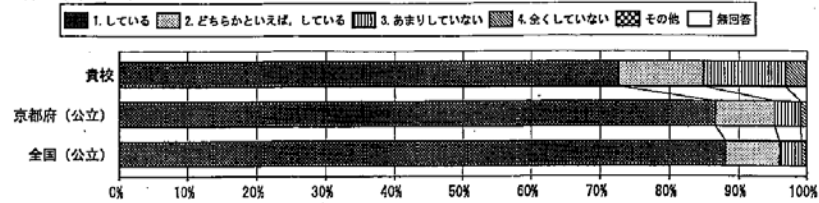
算数科より

算数の勉強を大切だと思っている子どもが多く、計算や分数の相等及び大小について答える問題については正答率が高く、基礎的な力が身に付いていると思います。問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるという子どもが多く、粘り強さが育ってきている結果が出てきています。

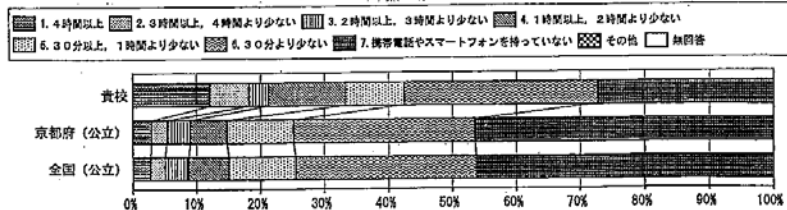
しかし、小数や分数を含む計算や体積を求める問題については、正答率が低く、小数・分数に対する苦手意識が顕著に現れています。日常生活の中で、算数の知識を活用できておらず、算数と日常生活を結び付けて考えていくことが今後の課題であると思われます。

児童質問紙調査より

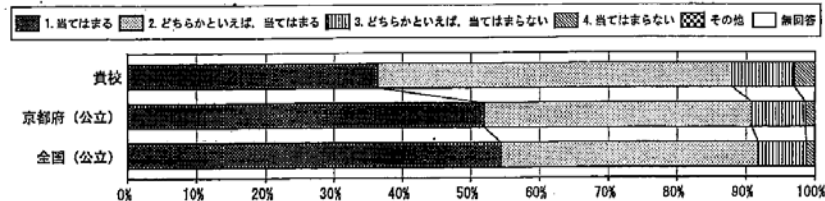
Q 朝食を毎日食べていますか。



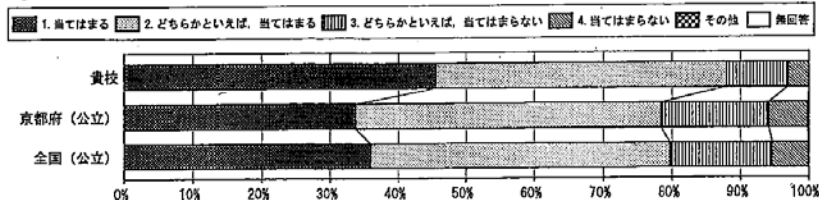
Q 普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをしますか。



Q 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



Q 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



以上の結果から、毎日の生活リズムや、生活体験などがとても大切なことがわかり、子どもたちは学校や、先生から大切にされていると感じていることがわかりました。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているものではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の生活習慣がその基盤となります。これからも子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をよろしくお願いいたします。